

通機会 Web ページ

<http://www.tsukikai.mce.uec.ac.jp/>



通機会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/uec.tsukikai>



◇◇◇◇ 退職教員からのメッセージ ◇◇◇◇

電通大での 21 年間を振り返って

機械知能システム学専攻 元教授 金子 正秀



電気通信大学に着任してから、早いもので 21 年が経ち、定年退職を迎えることになりました。国立大学をめぐる環境は、この 21 年の間に、着任時には想像もしなかったほどの大きな変化をしてきました。本学

も例外ではなく、この流れの中で大きく変化してきました。制度としての最も大きな変化は、2004 年 4 月に国立大学から国立大学法人になったことです。私自身にとってより身近なこととしての大きな変化は、2010 年 4 月に 7 学科・専攻から 4 学科・専攻へという大幅な改組が行われたことです。これに伴い、それまでに所属していた電子工学科・専攻が幕を閉じ、思いがけず知能機械工学専攻（その後、機械知能システム学専攻に名称変更）の所属になりました。学生時代からずっと電気・電子系の研究室や職場に所属してきましたので、機械系への所属は当初住む世界が変わった（少々大袈裟な表現ですが）と思えました。しかし、これは杞憂でした。所属は変わりましたが、改めて所属先の名称を見てみますと、21 年間の内の前半 12 年間の所属が電子工学専攻電子知能システム学講座、後半 9 年間の所属が知能機械工学専攻そして

機械知能システム学専攻であり、いずれも「知能」というキーワードが共通して入っています。電子的な知能を備えたシステム、そして知能を備えた機械を意味しており、いずれも私自身の研究分野と密接な関係があります。結果として、研究の根幹部分が変化することはなく、画像を中心としたメディア情報処理、特に顔画像情報処理、知的ヒューマンインタフェース、人間的に振舞う自律知能ロボット等の研究に 21 年間一貫して取り組むことができました。

これまでの 21 年間を振り返ってみますと、自分自身は年々歳々 1 歳ずつ年齢を加えますが、学生達は概ね 19 ～ 27 歳で年齢層が一定であり、学生の皆さんから常に若い新鮮なエネルギーをもらってきました。特に研究室に在籍した 100 名（内 55 名が修士に進学）の学士、77 名の修士、4 名の博士、更には JUSST 等の短期留学生 20 名には、研究室で共に時間を過ごし、各々の研究テーマと一緒に取り組むことを通じて、研究、教育について私自身、日々様々な体験をし、問題の解決を目指し、面白い結果に共に喜ぶことができたことを改めて感謝したいと思います。卒論生として研究室に配属された当初は、何とも頼りなく思えた学生達が、卒論を 1 年間経験し、更に修士の 2 年間で終える頃には、見違えるほどしっかりし、プレゼンテーション等もうまくなってくるという、その成長の過程に触れられたことは、教員冥利に尽きます。顔画像情報処理、知的ヒューマンインタフェース、人間的な振舞いをする自律知能ロボットの各研究テーマに関し、多くの興味深い研究成果を得ることができ、数多くの学会発表を行えたことは、研究室そして私自身にとっても貴重な財

通機会だより第 45 号の主な内容

退職教員からのメッセージ…1、新任教員からのメッセージ…2、第 32 回田中榮賞受賞者…3、通機会 特別講演会…7、就職支援活動報告…7、学内情報この一年…7、通機会会計報告…8、就職・進学状況…8 ほか

産になっています。

21年間、研究と教育にじっくり取り組む環境を与えて下さり、学生達と貴重な時間を共有することができた電気通信大学に深く感謝します。前述の様に学科・専攻の改組に伴い電子工学専攻から異動してきましたが、知能機械系の教職員の皆様には温かく受け入れて頂き、また真面目に卒論、修論、博論に取り組む学生諸君に恵まれ、充実した研究・教育活動を継続できましたことを大変ありがたく思っております。大学を取り囲む環境は今後更に厳しくなることが予想されますが、若い人材を育て、その能力を伸ばしていくことの重要性は、いつの時代も変わることはありません。「良い」研究、「良い」教育を行い、「良い」人材を育てる場として機械知能システム学専攻、そして電気通信大学が更に発展していくことを祈念致します。長い間、本当にありがとうございました。

退任にあたって ～9年間お世話になりました～

機械知能システム学専攻 元教授 桐本 哲郎



平成19年4月に本学に着任して、干支が一巡する12年が早経ちました。「光陰矢の如し」、「少年老いやすく…」の名言を実感しております。

その約半年前に電通大の教員採用面接を受けたわけですが、その面接の委員長が本間恭二先生だったのは、私が後に9年間お世話になる機械知能システム学専攻と縁があることの伏線だったのかもしれませんが。めでたく採用になり、着任当日、本間先生に挨拶に参りました。東4号館がタイル張りでござっぱりとして見えたので、先生との雑談の中で「電通大の建屋はきれいですね」と申し上げたところ、先生から「桐本さんの所属する電子工学科は西地区が拠点です。あの地区には古い建物が多いので…」と伺ったのが何故か耳に残っています。かくして私は、研究室を西2号館に構えました。当時、西2号館は耐震改修前でしたので、かなり古ぼけた

建屋でした。先生のお話通り、居室は薄暗く、空調も効くのか怪しい。これでは、学生にアピールできない。電通大屈指のきれいな空間を確保しようと奮起し、学科が用意してくれた準備支度予算をはたいて、エアコンの更新、壁の塗り替え、電源配線の再構築を進めました。また、学生机はモダンなOA机を求めました。新品で揃えるほどの予算はありません。そこで、ネットで手頃な中古家具を見つけ、軽トラックをレンタカーして、商品を引き取りに出かけたことを覚えております。当時は必死でしたが、今となっては良い思い出です。その机達は、最後まで活躍してくれました。

平成22年4月の改組によって、研究科が電気通信学研究科から情報理工学研究科となって、計測・制御を専門とする研究室が集まることになり（間違っているかな？）当時の知能機械工学専攻の一員となりました。当時、同専攻には知り合いの先生も少なく、最初の教授会等の会議では緊張したことを覚えています。そんな不安は、皆さんが温かく迎えてくださったおかげで、杞憂に終わりました。9年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。この紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

最後となりますが、通機会の今後の一層のご発展を祈念して、筆を置きたいと思えます。

◆◆◆◆ 新任教員からの メッセージ ◆◆◆◆ 新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 定本 知徳



2018年11月15日付けで助教として着任いたしました定本知徳と申します。通機会の皆様本文をお借りしてご挨拶申し上げます。

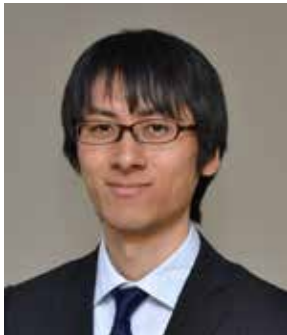
私は2011年に東京工業大学にて強化学習に関する内容で修士号を取得後、神奈川県横須賀付近にあります住友重機械工業株式会社に2年間勤めておりました。その後、大学で研究がしたいという思いが捨てられず東

工大に戻りました。企業在籍時に興味が大きく変わったため修士時代とは異なる研究室に所属し、博士課程では大規模システムの制御について研究しておりました。周囲の手厚いサポートのおかげで博士課程を1年短縮して2年で修了し、その後1年間をスウェーデン王立工科大学の客員研究員として過ごしました。帰国後は博士時の研究室でエネルギーマネジメントに関するプロジェクトの研究員・特任助教を計2年半程度務めました。この間、学会発表を通じて知り合ったノースカロライナ州立大の先生のもとを3度、計4カ月弱訪問し、帰国後すぐにこちらに着任致しました（着任日が通常の日程から少しずれて11月15日となっているのはそのためです）。短い期間に様々な所を転々としてまいりましたが、これからは腰を据えて研究・教育に取り組みたいと考えています。

元々は制御理論の研究をしておりましたが、ここ3年程は電力システムの研究にも取り組んでいます。これまでの制御理論は数学との結びつきが強く、そのためか実応用との乖離が激しいといわれています。一方、電力工学は非常に実応用的でありながら、システム理論的な観点からはまだまだ考えるべき問題も解決できそうな課題も多いと感じています。ちょうど真水と海水のように近いようで遠い両者の視点をうまく取り入れ、真なる融合研究に取り組んでいきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

機械知能システム学専攻 助教 遊佐 泰紀



2019年10月1日付で着任した遊佐泰紀（ゆさやすのり）と申します。2015年3月に東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻で学位を取得した後、東京理科大学理工学部機械工学科で嘱託助教として4年半働き、そして、本学に参りました。前職では、次の職が決まらずに任期終了に至るかという状態でしたので、拾っていただきとても感謝しております。

私の現在の研究分野は固体力学、計算力学、計算機支援工学です。固体力学のシミュレーションに多用されている有限要素法の数式、アルゴリズム、プログラムを隅々までケアできることが研究上の特技です。この分野ではすでに多くの技術が陳腐化して商用有限要素法解析ソフトウェアに取り込まれている一方で、社会的には技術のロストテクノロジー化が進んでいるのではないかと思います。つまり、進歩し続ける有限要素法解析ソフトウェアの中身がわかる人は社会にどれほどいるのかという問いです。そのような成熟しつつある分野で研究を続けることに意義があるのかというお言葉を頂くこともあるのですが、まだまだシミュレーションが困難な力学問題も多数あります。それは、計算コストの観点から困難であるものや現象の複雑さからモデル化が困難であるものなど様々です。そういった問題に対して何か新しい一手を打つことができないかということが最近の興味です。

原稿執筆時点で着任後1ヶ月半ですが、本学では、何も無いところから居室の環境を構築したり、勝手が違う事務書類に苦戦したり、最初はゴミの出し方すらよくわからなかったりと戸惑うことばかりの日々です。一日も早くファカルティの戦力になれるように精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆◆◆ 第32回田中栄賞 ◆◆◆ 受賞者

平成30年6月

Muhamad Zuhairi Bin Sulaiman（課程博士（工学））
「A Study on Boiling Heat Transfer of Non-metallic Nanoparticles in Water-based Nanofluid Pool Boiling（非金属粒子を懸濁させた水ベースナノ流体のプール沸騰熱伝達に関する研究）」
（指導教員：大川富雄教授）

平成30年9月

Alissa Ullly Ashar（課程博士（工学））
「A Piecewise Polynomial Lyapunov Function Approach to State Feedback and Estimation for a Class of Nonlinear Systems（あるクラスの非線形システムに対する状態フィードバックと推定のための区分多項式リアプノフ関数アプローチ）」

(指導教員：田中一男教授)

佐藤 匡 (課程博士 (学術))

「脳磁場信号源推定を用いた高時空間分解能神経電流解析による脳内情報表現の研究」

(指導教員：宮脇陽一教授)

石井 将人 (課程博士 (工学))

「モーショキャプチャー法 PSP/TSP を用いた実飛翔体における表面状態計測」

(指導教員：宮寄武教授)

小林 允 (論文博士 (工学))

「ウェーブレットに基づいた地中レーダ受信信号のノイズ除去と埋設管位置標定に関する研究」

(紹介教員：桐本哲郎教授)

平成 30 年 12 月

粕谷 美里 (課程博士 (工学))

「多点表面電気刺激と発現する手指姿勢の関係の表現方法」(指導教員：横井浩史教授)

平成 31 年 3 月

安食 嘉晴 (課程博士 (工学))

「ナノアンテナ構造体を用いたプラズモン共鳴型シリコン赤外光検出器の研究」

(指導教員：菅哲朗准教授)

有田 輝 (課程博士 (工学))

「足裏近接覚を用いた二足歩行の実時間軌道計画」

(指導教員：明愛国教授)

Jean-Charles Pelletier (課程博士 (工学))

「Micro Manipulation by Multiple Flows (微小流を用いたマイクロマニピュレーション)」

(指導教員：青山尚之教授)

田中栄賞受賞にあたって

知能機械工学専攻 **石井 将人**

この度は、栄えある田中栄賞を授与いただき、ありがとうございました。平成 26 年 4 月に社会人ドクターとして入学し、平成 30 年 9 月に学位記をいただくまで、業務の都合もあり、途中 1 年間の休学を経て都合 4 年半の時間を要しましたが、期待する実験結果が出ない中でも、焦ることなく進めるように、と繰り返しご指導いただいた指導教官の宮寄教授には感謝の気持ちしかありません。また、前川教授、大川教授、千葉准教授、Matuttis 准教授には審査委員として大変貴重なご指導をいただきました。この場を借りて改めて御

礼申し上げます。授与式の会場となった AV 会議室は審査会の会場であったこともあり、特に予備審査会において諸先生方からいただいた厳しいご指摘を改めて思い出して初心に帰った気持ちです。

最も深く記憶に残っているのは、予備審査会後に論文の修正内容をご説明に上がった際、審査委員の先生から言われた「この研究結果をどれだけの人に使ってもらえるかが大切」ということです。普段の業務では、「幅広く使ってもらう技術」という観点から若干の距離を置き、「極めて限られた業界で必要だけど普通は使われない技術」を追っている面もあります。「幅広く使ってもらう技術」を追うことは、考えるまでもなく優先されるべき事柄なのですが、その感覚を失っていた自分を戒め、今後の研究活動に活かしていこうと思います。

在学中には多くの修士課程の学生さんに実験を手伝っていただきましたが、その誰もが優秀で個性的な方々でした。多くの皆様に、改めて深く感謝致します。

田中栄賞受賞にあたり

知能機械工学専攻 **粕谷 美里**

この度は博士 (工学) に加え、栄誉ある田中栄賞を賜りまして誠にありがとうございます。通機会の会長である中野禅様、関係各位の皆様には厚くお礼を申し上げます。

私が電気通信大学に (当時の情報理工学研究科知能機械工学専攻に) 入学したのは、2014 年 4 月でした。

2011 年、他大学にて修士を修了後、半導体製造装置メーカーに就職し、ソフト設計業務に従事しておりました。当時、私の勤めた企業では、リーマンショックの影響により、すぐに得られる利益を生み出さねばならない経営方針でした。そのため、切り捨てざるを得ない技術的な検証が日常にある中、切り捨てた先にある技術の可能性を追求したいという思いが日に日に大きくなっていったことを覚えています。徐々に利益だけではなく、純粋に学問として可能性の追求ができる「研究」にもう一度しっかり取り組みたいと思うようになり、博士への進学が確かな思いになっていきまし

た。しかしながら、勤めていた企業では社会人博士の制度は認められておらず、博士進学のためには退職する以外選択肢がありませんでした。院卒で就職をした27歳の女性の立場としては、結婚や出産など様々なことを考慮すると退職し、進学をすることはものすごく大きな決断であったと思います。しかしながら、当時の私は、博士進学を決意し、不安よりも楽しみでしかたなかったことを覚えています。そして、退職後、2014年4月に本学博士後期課程に進学し、横井研究室に籍を置かせていただくこととなりました。

横井浩史教授の元、機能的電気刺激を用いた運動機能の回復技術に関する研究に取り組んでまいりました。本テーマを希望した理由は、修士での研究で機能的電気刺激用の神経刺激電極の開発に取り組んでいたことがきっかけでした。修士までは細胞を対象に研究を行っていましたが、横井研究室では人間を対象に、常にユーザを視野にいたれた研究に取り組んでおりました。また、様々な研究に触れる機会をいただくことができ、博士論文のテーマである多点表面電気刺激だけではなく、脳活動計測などにも取り組ませていただきました。

また、私は博士課程在籍中に、同研究室の博士課程在籍者と結婚し、一児の母となりました。休学や、博士号取得の断念をも考えることもありましたが、横井教授のご指導や激励をいただき、最後まで多大なご迷惑をおかけしつつ、2018年12月、博士論文を書き上げることができました。横井教授との出会い、横井研究室に在籍できたことが、私にとって何にも代え難い出来事であり、本当に人生の転機となる期間でした。

順風満帆な道のりではありませんでしたが、私があきらめずここまで来ることができたのは、理学系の出身であり、工学分野の知識の大変乏しい私に、様々なチャンスを下さり、手厚いご指導、ご支援をいただきました、横井浩史教授、杉正夫准教授、姜銀来准教授、東郷俊太郎、森下壮一郎様（元脳科学ライフサポート研究センター特任助教）のおかげであることに、心より感謝申し上げます。

また、学位申請にあたり審査の際に貴重なご意見を頂きました狩野豊教授、小池卓二教授、岡田

英孝教授、杉正夫准教授、姜銀来准教授に厚くお礼申し上げます。

2019年1月より、電気通信大学TLO・株式会社キャンパスクリエイティブにて産学官連携コーディネーターを務めさせていただきます。これまでに培ってきた研究活動に関する知識や、ご指導いただきました研究に関する考え方を生かし、様々な研究の発展に役立てるコーディネートを心がけていきたいと思っています。

田中栄賞受賞にあたり

機械知能システム学専攻 安食 嘉晴

この度は博士（工学）の取得に加え、荣誉ある田中栄賞を授与して頂き、誠にありがとうございます。通機会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。私は、共同研究をしていたご縁から、平成29年10月に電気通信大学博士課程に入学し、平成最後の今年、博士号の学位をいただくことができました。

研究内容は、シリコンを用いた赤外光検出器に関するものでして、共同研究で菅哲朗先生と進めてきた内容を深め、博士論文にまとめることができました。研究生生活を通じ、指導教授であった菅哲朗先生、青山尚之先生に多大なるご指導を受け、大変感謝をしております。最後になりましたが、お忙しい中学位論文の審査委員をお引きいただいた、野崎 眞次先生、内田 雅文先生、金森 哉吏先生及び関係者の皆様のご協力、ご支援に厚く御礼申し上げます。



平成31年3月25日に行われた授与式の様子

田中栄賞を受賞して

機械知能システム学専攻 有田 輝

この度は博士号に加えて荣誉ある田中栄賞を授与して頂き、誠にありがとうございます。通機会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私はこれまで近接センサの開発と応用に携わってまいりました。そのスタート地点は、電気通信大学の下条研究室です。指導教員の下条誠教授には、それまでモノづくりの経験も少なかった私にセンサの魅力を伝えて頂き、研究に没頭する機会を与えて頂きました。また、当時助教として在籍されていた鈴木陽介先生（金沢大学）には、何度も相談や議論の相手となって頂き、研究を促進して頂きました。さらにそのように夢中で研究を楽しめる環境であったのは先生方だけでなく先輩、同期、後輩の皆様のお陰であると思っております。現在の私の原点とも言える経験を与えてくださった皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。私は同研究室での研究で博士前期課程を修了後、一度企業でセンサ開発に努めておりましたが、研究の楽しさを忘れられず、博士後期課程へと進学いたしました。その際、センサの開発だけでなく、その応用へ着手したいという思いから、明愛国教授に受け入れて頂きました。それまでの自身のテーマとは少し異なる分野で博士研究テーマを設定した私を見捨てず、最後までご指導くださった明愛国教授には大変感謝しております。ありがとうございました。

2019年4月からは立命館大学の助教に着任することとなりました。これまでの経験を余すことなく活用し、技術発展に貢献することによって皆様のご恩に報いたいと考えております。

最後に、ご多忙にもかかわらず学位論文の審査にご協力頂き、たくさんのご意見と励ましのお言葉を頂戴しました田中一男教授、内田雅文教授、小泉憲裕准教授、田中基康准教授に深く感謝致します。そしてこのような場を与えてくださった通機会の皆様に厚く御礼申し上げます。

田中栄賞を受賞して

知能機械工学専攻 Jean-Charles Pelletier

It is an honor for me to receive this Tanaka Sakae award. I studied for my engineering degree in France and first came to Japan for a 6 months internship in UEC. That's when I first met my supervisor, Prof. H. Aoyama. I had very high expectations as I was planning to learn from him and was looking forward to find a job in Japan. But after 6 months I felt like I wanted more; my Japanese was not good enough to work in Japan and I definitely wanted to stay longer.

So I talked with my professor and engaged in the registration process to start my PhD as soon as possible. Without a scholarship and with limited Japanese language skills, the beginning of my PhD was very complicated, struggling between part-time jobs, paperwork and Japanese classes. But I got better. My Japanese improved, I found financial supports and could spend more time on my research.

The first challenge of my PhD appeared me I had to change my working philosophy; the French engineers schools focus heavily on a company/business oriented model while what I was asked to do was a research task. Having good results is not enough; the analysis, understanding and presentation matters as well. When the results come, questions arise and they shall be answered and reported. With more experiments. Along with this new philosophy, the publication system was obscure for me (companies insist on confidentiality). And I shall thank my supervisor for guiding me through all this. I will always remember that Professor in Japan who always answered my mails within 30 minutes, even at 2 in the morning.

I found in Japan an environment I enjoyed and friends I cherish. I lived numerous adventures, faced many challenges and learned many lessons.

I have too many people to thank here. My supervisor, Prof. H. Aoyama, but also Dr. Y. Irie, Prof. C. Kanamori and all the staff from Aoyama laboratory and all the students. My friends, family.

◇◇◇通機会 特別講演会◇◇◇

日時：平成31年1月9日（水）16:15-17:45

場所：東5号館341教室

題目：新しいものづくりへの挑戦

～既成概念を打ち壊そう～

講師：青木 柁憲氏

（1978年機械工学第二学科卒業）

所属：本田技術研究所

二輪R&Dセンター 開発戦略室

講演概要：

入社以来バイク開発一筋、数々のヒット車を生み出したベテラン技術者である青木様に、「No.2では意味がない」「調査・統計で過去や現在は語れるが、未来を語れるのは人間だけの特権」「アイデアはいつ、どこで生まれるか分からない」「最大の敵は、前例のないことを否定する社内の壁。みんなが反対するのは、既成概念をはみ出しているから。むしろそこにヒットの可能性もある。」「社長の意見でも、そのまま従わない強い意思」など、二輪車New Mid Concept Seriesの開発を通して得られたご自身の経験について講演していただきました。

◇◇◇就職支援活動報告◇◇◇

令和元年度は現場で活躍されている卒業生1名を講師としてお招きして、講演会を実施しました。129名（感想文枚数）の学生の参加者がありました。

通機会就職支援2019「人生設計第一」

日時：令和元年7月24日（水）14:40-16:10

場所：東5号館241教室

題目：好きな仕事で生きていく

e.g. カワダロボティクス株式会社

講師：寺崎 清氏

（2010年知能機械工学科卒業、

2012年博士前期課程修了、青山研究室OB）

所属：カワダロボティクス株式会社

企画部特機課

当日は、大学・学科の選択理由から、ロボメカ工房での活動、研究室選び、進学理由、就職活動の考え方と実際の活動内容、入社してからの様々な経験について、やさしく丁寧にご講演いただきました。また、質疑応答では、昨年に引き続き匿名で質問することのできる sli.do を利用し、学生がスマホやパソコンから入力した質問をスクリーンに投影して、会場全体で共有しいろいろと議論をすることができました。寺崎様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

◇◇◇学内情報この一年◇◇◇

1. 教職員の異動など

平成30年9月30日

長井隆行教授 大阪大学に転出

平成30年11月1日

饗庭絵里子助教 准教授に昇任

平成30年11月15日

定本知徳助教 採用（金子修研究室）

平成31年3月31日

金子正秀教授 定年退職

桐本哲郎教授 定年退職

平成31年4月1日

千葉一永准教授 教授に昇任

中村友昭助教 准教授に昇任

令和元年10月1日

遊佐泰紀助教 採用（増田研究室）

2. 卒業生と新入生の記録

平成30年6月30日 6月期修了

大学院情報理工学研究科

知能機械工学専攻 博士後期課程 1名

平成30年9月28日 9月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 1名

知能機械工学専攻 博士後期課程 3名

平成30年10月1日 10月期入学式

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 3名

博士後期課程 5名

平成30年12月31日 12月期修了

大学院情報理工学研究科

知能機械工学専攻 博士後期課程 1名

平成31年3月25日 卒業式

情報理工学部 知能機械工学科 146名

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 102名

博士後期課程 2名

知能機械工学専攻 博士後期課程 1名

平成31年4月4日 入学式

情報理工学域

昼間コース 728名

夜間主コース（先端工学基礎課程）33名

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 117名

博士後期課程 9名

令和元年6月30日 6月期修了

大学院情報理工学研究科

知能機械工学専攻 博士後期課程 1名

令和元年9月30日 9月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 1名

博士後期課程 1名

令和元年10月1日 10月期入学式

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士前期課程 2名

博士後期課程 2名

令和元年12月31日 12月期修了

大学院情報理工学研究科

機械知能システム学専攻 博士後期課程 1名